



2025年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月14日

上場会社名 株式会社 fantasista 上場取引所 東
 コード番号 1783 URL https://fantasista-tokyo.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田野 大地
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 大森 健史 (TEL) 03-5572-7848
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年9月期第1四半期の連結業績 (2024年10月1日~2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第1四半期	6,276	806.0	180	—	67	—	42	—
2024年9月期第1四半期	692	△82.4	△196	—	△199	—	△212	—

(注) 包括利益 2025年9月期第1四半期 42百万円(—%) 2024年9月期第1四半期 △212百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期第1四半期	0.25	—
2024年9月期第1四半期	△1.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期第1四半期	9,265	6,646	71.7
2024年9月期	14,215	6,616	46.5

(参考) 自己資本 2025年9月期第1四半期 6,646百万円 2024年9月期 6,613百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	—	—	0.00	0.00
2025年9月期	—	—	—	—	—
2025年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年9月期の連結業績予想 (2024年10月1日~2025年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,000	24.9	750	6.8	500	△24.7	320	10.1	1.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年9月期1Q	170,042,851株	2024年9月期	170,042,851株
2025年9月期1Q	282株	2024年9月期	282株
2025年9月期1Q	170,042,569株	2024年9月期1Q	170,042,649株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要素により異なる可能性があることをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期連結累計期間の経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 当四半期連結累計期間の経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、円安を背景としたインバウンド需要が増加し、雇用・所得環境が改善し、企業の設備投資も引き続き堅調に推移するなど、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、物価上昇、アメリカの政策動向、中東地域をめぐる情勢、資本市場の変動等、景気下振れリスクは多数存在し、先行き不透明感は依然として続いております。

一方で当社の主要事業領域である不動産業界では、以下の重要な動向が見られました。

- ・日銀がマイナス金利政策を解除し政策金利を引き上げたことで、消費者にとって新たな課題が生じた。
- ・労働力不足や資材高騰で新築マンション等の供給が減少する一方、都心近郊など、交通の便や生活環境が整っている地域の人気高騰・売買価格が上昇し、そうでない地域の価格が低迷する傾向が顕著になった（二極化）。
- ・東京都心では再開発が進行し、新たな商業施設やオフィスの計画により、不動産市場にさらなる価格変動が生じている。

このような状況のもと、当社は、『多様化する世界に驚きと感動を与え続けるためにたゆまぬ努力で挑戦し続ける。』の企業理念に基づき、当社グループの柱であるリアルエステート事業の収益力のさらなる強化と、新たな柱となる事業の育成の取組みを進めております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高62億76百万円（前年同四半期売上高6億92百万円）、営業利益1億80百万円（前年同四半期営業損失1億96百万円）、経常利益67百万円（前年同四半期経常損失1億99百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益42百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失2億12百万円）となり、それぞれの利益段階で黒字となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、以下の売上高にはセグメント間の内部売上高を含んでおりません。

1) リアルエステート事業

リアルエステート事業におきましては、前連結会計年度末に積上げた販売用不動産（京都市中京区の物件：売上高48億98百万円他）の販売により、またインバウンド需要に支えられたホテル事業の貢献もあり、当第1四半期連結累計期間は、売上高61億70百万円（前年同四半期売上高5億56百万円）営業利益3億15百万円（前年同四半期営業損失74百万円）となりました。

2) ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、同業他社において昨年3月に発覚した紅麹問題の発生以降、その影響により業績低迷の状況が続いております。当第1四半期連結累計期間においては、業績回復のため、新規顧客の掘り起こしおよび定着化を目的にホームページのリニューアル等を実施しました。結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高30百万円（前年同四半期売上高1億35百万円）、営業損失17百万円（前年同四半期営業利益30百万円）となりました。

3) クリーンエネルギー事業

クリーンエネルギー事業は、当連結会計期間において、系統用蓄電池用地の第一号の販売成約があり、今後さらなる業績の積上げが見込めることから、当第1四半期連結累計期間から報告セグメントといたしました。当第1四半期連結累計期間は、売上高74百万円（前年同四半期売上高0百万円）、営業利益26百万円（前年同四半期営業損失4百万円）となりました。

4) その他

当社グループは、既存の事業に加え、新たな事業の開拓・育成を行っております。

「系統用蓄電池」や「EV（電気自動車）充電器」の事業領域を含むクリーンエネルギービジネスは、当第1四半期連結累計期間において、上述のとおり、「クリーンエネルギー事業」を報告セグメントといたしました。

不動産DXビジネス領域における「造成くん、AI」（※ AIにより不動産開発や造成工事の土量や費用の概算見積書を簡単に高速で作成できるアプリ）も、その準備を進めており、その進展によって報告セグメント化していく方針であります。

なお2024年6月30日付取締役会において事業廃止を決議した不動産コンサルティング事業は、量的重要性も低下したため、同事業の報告セグメントを廃し、「調整額」に含めて表示しております。

（2）財政状態に関する説明

1) 資産

当第1四半期連結累計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて49億49百万円減少し、92億65百万円となりました。

流動資産は49億39百万円減少し74億75百万円、固定資産は9百万円減少し17億90百万円となりました。流動資産減少の主な要因は、現金及び預金の増加5億74百万円、売掛金の減少4億53百万円、販売用不動産の減少50億1百万円などです。

固定資産減少の内訳は、有形固定資産の増加2百万円、無形固定資産の減少10百万円などです。その主な要因は、無形固定資産ののれんの減少82百万円、無形固定資産その他の増加71百万円などです。

2) 負債

当第1四半期連結累計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて49億79百万円減少し、26億19百万円となりました。

流動負債は47億87百万円減少し19億93百万円、固定負債は1億91百万円減少し6億26百万円となりました。流動負債減少の主な要因は、買掛金の減少15億93百万円、短期借入金の減少30億18百万円、未払法人税等の減少2億41百万円など、固定負債の減少の主な要因は、長期借入金の減少1億93百万円などです。

3) 純資産

当第1四半期連結累計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて30百万円増加し、66億46百万円となりました。純資産増加の主な要因は、利益剰余金の増加32百万円などによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年11月14日付の2024年9月期決算短信で発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,965,997	3,540,472
売掛金	550,855	97,795
商品	579,874	572,199
原材料及び貯蔵品	1,792	21,282
販売用不動産	7,997,300	2,995,949
前渡金	39,221	7,970
未収入金	13,565	3,700
その他	280,610	237,951
貸倒引当金	△13,974	△1,935
流動資産合計	12,415,243	7,475,384
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	143,802	142,666
機械装置及び運搬具(純額)	442	258
工具、器具及び備品(純額)	5,819	6,378
土地	194,497	194,497
リース資産(純額)	2,137	1,976
その他(純額)	443,027	446,038
有形固定資産合計	789,726	791,815
無形固定資産		
のれん	655,202	573,114
その他	119,499	191,260
無形固定資産合計	774,701	764,375
投資その他の資産		
繰延税金資産	113,566	113,566
その他	121,889	120,905
貸倒引当金	△100	△100
投資その他の資産合計	235,355	234,371
固定資産合計	1,799,784	1,790,562
資産合計	14,215,027	9,265,946

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,613,127	19,489
短期借入金	3,349,371	331,371
1年内返済予定の長期借入金	226,598	159,358
未払法人税等	269,434	27,539
賞与引当金	6,023	1,505
株主優待引当金	18,996	—
その他	1,297,366	1,453,774
流動負債合計	6,780,919	1,993,039
固定負債		
長期借入金	723,476	530,320
役員退職慰労引当金	21,725	23,700
退職給付に係る負債	331	410
リース債務	—	6,243
長期預り金	35,700	35,700
資産除去債務	29,919	29,985
その他	6,773	115
固定負債合計	817,926	626,475
負債合計	7,598,845	2,619,514
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,633,604	6,633,604
資本剰余金	4,652,655	4,652,655
利益剰余金	△4,672,351	△4,639,783
自己株式	△43	△43
株主資本合計	6,613,864	6,646,432
新株予約権	2,318	—
純資産合計	6,616,182	6,646,432
負債純資産合計	14,215,027	9,265,946

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年10月1日 至2023年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年10月1日 至2024年12月31日)
売上高	692,758	6,276,679
売上原価	543,657	5,760,782
売上総利益	149,101	515,897
販売費及び一般管理費	345,635	335,009
営業利益又は営業損失(△)	△196,534	180,887
営業外収益		
受取利息	—	51
受取配当金	1,512	—
その他	1,050	2,025
営業外収益合計	2,562	2,077
営業外費用		
支払利息	5,855	115,624
その他	—	3
営業外費用合計	5,855	115,627
経常利益又は経常損失(△)	△199,826	67,337
特別利益		
新株予約権戻入益	—	2,318
特別利益合計	—	2,318
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△199,826	69,655
法人税等	12,969	27,569
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△212,796	42,085
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△212,796	42,085

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年10月1日 至2023年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年10月1日 至2024年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△212,796	42,085
四半期包括利益	△212,796	42,085
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△212,796	42,085
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(千円) (注) 2
	リアル エステート 事業 (千円)	ヘルスケア 事業 (千円)	不動産 コンサルティング 事業 (千円)	合計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	556,321	135,851	585	692,758	—	692,758
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	44,166	—	44,166	△44,166	—
計	556,321	180,018	585	736,925	△44,166	692,758
セグメント利益又は 損失(△)	△74,862	30,712	△4,972	△49,123	△147,411	△196,534

(注) 1. セグメント利益の調整額△147,411千円には、セグメント間取引消去△44,166千円、各報告セグメントに帰属していない全社費用△145,200千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(千円) (注) 2
	リアル エステート 事業 (千円)	ヘルスケア 事業 (千円)	クリーン エネルギー 事業 (千円)	合計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	6,170,993	30,683	74,900	6,276,577	102	6,276,679
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	58,093	—	58,093	△58,093	—
計	6,170,993	88,777	74,900	6,334,670	△57,991	6,276,679
セグメント利益又は 損失(△)	315,049	△17,525	26,544	324,069	△143,181	180,887

(注) 1. セグメント利益の調整額△143,181千円には、セグメント間取引消去△58,093千円、各報告セグメントに帰属していない全社費用△142,696千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

1. 当第1四半期連結会計期間より、従来報告セグメントとして記載しておりました「不動産コンサルティング事業」については、2024年6月30日取締役会での事業廃止決議し、量的重要性も低下したため、同事業の

報告セグメントを廃し、「調整額」に含めて表示しております。なお、当第1四半期連結会計期間において「調整額」に含まれる同事業の売上高は102千円、セグメント損失は485千円であります。

2. 当第1四半期連結会計期間より、2023年12月に事業を開始したクリーンエネルギー事業は、これまで「調整額」に含めて表示しておりましたが、重要性が高まったため、報告セグメントとして記載する方法に変更いたしました。これにより、第1四半期連結会計期間の同報告セグメントは、売上高74,900千円、セグメント利益26,544千円となる一方、「調整額」は同額減少しております。

※ 本決算短信P2「1. 当四半期連結累計期間の経営成績等の概況 (1) 経営成績に関する説明 3) クリーンエネルギー事業及び 4) その他」をご参照ください。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	2,660千円	5,178千円
のれん償却費	81,962	82,087